

もうひとつのシンデレラ (前半)

むかし きたな ふく き おんな こ おんな
昔、あるところに汚い服を着たきれいな女の子がいました。その女の子はシンデレラと呼ばれていました。女の子の本当のお母さんは死んで、あたらしいお母さんと新しいお姉さんに、毎日掃除をさせられていました。シンデレラはお皿を洗わせられたり、お姉さんの服を洗濯させられたりしていましたが、心の中では、「どうして私だけがこんな仕事をさせられるのかしら。将来は、きっとあのお姉さんに私の仕事を全部させてやるわ。」と、思っていました。そうです。シンデレラはとても気が強かったのです。

ひ かねも
ある日、お金持ちのうちでパーティーをすることになりました。シンデレラは「チャンスだわ。」と思いました。でも、お姉さんはシンデレラにドレスを貸してくれません。それどころか靴を磨かせたり、髪をきれいにさせたりしました。準備ばかりさせられて、シンデレラはついに怒り出しました。「冗談じゃないわ。なによこんな髪の毛。」と言って、お姉さんの髪の毛を切ってしまいました。「きゃあ。何をするの。これじゃパーティーに行けないわ。」とお姉さんは泣き出しました。「ふん。よく似合ってるわよ、その髪形。」さあ、今度はシンデレラがパーティーの準備をする番です。お姉さんのドレスを着て、きれいに化粧をしました。「やっと自由になったわ。今日のパーティーで お金持ちの息子と恋人になって、結婚して見せるわ。オーホッホッ…」シンデレラは 死んだお母さんにもらったガラスの靴をはいてパー

ティーに行きました。パーティーは3日間です。シンデレラはお金持ちの

息子と踊りながら考えました。「この3日のうちに何とか恋人にならなく
ち

や…でも、どうすればいいかしら…。」